

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立 加茂 中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

教育目標 「心豊かで主体的に学び、たくましく生きる生徒の育成」

目指す生徒像

- 1 豊かな心を持ち、個性を伸ばし、目標に向かって粘り強く努力のできる生徒
- 2 自他の生命や人権を尊重し、思いやりを持って、互いを認め合う生徒
- 3 自ら考え、判断し行動することのできる生徒

今年度の指導の重点

- 1 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と活用能力、主体的な学習態度を育てる授業の創造に学校全体で組織的に取り組み、確かな学力の定着と伸長を図る。
 - (1) 生徒一人一人の意欲を引き出す授業の創造(アクティブラーニング)(2) 家庭における学習習慣の確立に向けた意図的な指導と保護者への働きかけ
 - 2 生徒の人権・人格を尊重し豊かな心の育成を図る。
- 2 道徳教育の充実(心に響き、心を耕す道徳教育)(2) 健全育成(生徒指導)の充実(確固たる規範意識と、自己指導力の育成)(3) 進路指導の充実(キャリア教育の視点に立った進路指導)(4) 特別支援教育の充実(一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実)(5) 情報教育の充実(変化に対応できる態度・能力の育成とICT活用の推進)
- 3 小中一貫教育のさらなる充実と家庭・地域との連携をより推進する。
 - (1) 加茂中ブロックの小中一貫教育の見直し(「学び」と「育ち」をつなげる)(2) 地域の方や施設・事業所等との協働による学校教育活動の充実(キャリア教育の視点)

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(3年)

- 国語B、数学Bについては県平均と比べ正解率が高い。数学Aが県平均より低かった。
- 国語Bは全国平均より高い。数学Aが全国平均より低かった。国語A・数学Bについては全国と同レベルであった。
- 数学Aでは関数と資料の整理について課題が残った。
- 国語A:「白羽の矢が立つ」(本校44.2%, 全国54.0%)
- 国語B: 課題を決めそれに応じた情報の収集法を考える(本校76.4%, 全国49.2%)
- 数学A: 資料の活用(最頻値を求める・・・本校44.2% 全国56.5%)
- 数学B: 一次関数の表から $\chi=4$ の値を求める(本校72.1%, 全国59.1%)

県(1年)

- 4教科すべて県平均を上回った。特に社会については大きく上回っている。
- 「基礎」は4教科すべて県平均を上回った。特に社会と国語は非常に大きく上回っている。
- 「活用」は前年度と比べ大きな改善があったが、県平均よりやや低かった。
- 国語: 文法・語句に関する知識(本校69.2%, 県57.1%) 書くこと(本校44.2%, 県59.3%)
- 数学: 角の大きさ、量の単位のしくみ(本校66.3%, 県56.9%) 百分率・割合・比(本校33.7%, 県40.2%)
- 理科: 太陽の動きと気温(本校77.5%, 県70.1%) ふりこのきまり(本校48.8%, 県55.2%)

【学習状況調査の結果】

全国(3年)

- 家庭での宿題や予習をしているは県・全国に比べ高いが、復習は低い。
- 地域の行事の参加やボランティア活動の参加は高い。
- 班学習・グループ学習での話し合い学習が良くできていると感じている生徒の割合が高い。
- 感想文や説明文を書くことが難しいと感じている生徒が少ない。
- 読書の好きな生徒の割合が県・全国に比べかなり低い。
- 数学を生活の中に活用したり、社会に出て役立つと思っている生徒の割合が高い。
- テレビについては2時間以上3時間以下が多い。

県(1年)

- 全体的にポイントが高くなっている。県平均より高い項目が増えてきている。
- 地域の行事参加、ボランティア活動など、人の役に立つ等が高い。
- 自尊感情や他の人への関わりは高い。
- 自分で計画を立てて勉強したり、何のために勉強するのかを考えている生徒の割合が高い
- 図書館の利用については、前年度より低くなっている。読書については好きな生徒が県に比べかなり低い。
- 自分の考えを人に説明したり、文章に書くことが難しいと感じている生徒の割合が高い。
- 読書については好きな生徒が県に比べかなり低い。
- テレビについては2時間以上3時間以下が多い。家庭での学習は県平均より高い。

成果と課題

全国(3年)

- 国語ABは県より上回った。数学についてはAがやや下回っているため、今後基礎・基本を定着させる必要がある。
- 国語B、数学Bは全国平均レベルになった。
- 数学Aについては、「関数・資料の整理」においてより定着させる課題がある。
- 読書の好きな生徒の割合が低かった。読書習慣を定着させる必要がある。
- 家での予習はやや高いが、復習については県・全国の割合よりやや低い。
- 人にわかりやすく話す、文章に書くことが苦手な生徒がやや低かった。

県(1年)

- 小学校での基礎・基本と知識の定着は良いが、既習内容の応用や活用については県平均より低い教科がある。
- 国語については、言語能力の「話す・聞く・書く能力」が低かった。
- 理系教科(数学・理科)が苦手な生徒がやや多いと思われる。
- 数学では割合・比・百分率などの数学的な考え方が低く課題が残った。
- 説明や文章に書くなど表現力が低かった。

課題に対応した改善方法

- 表現力・説明力・活用力を高める。(アクティブラーニングを取り入れた授業法)
- 岡山県学習スタンダードを基盤にした「加茂スタンダード」の徹底・・・本時の目標や授業の流れや計画の提示・まとめ・振り返り
- 家庭学習と授業との接続(家庭学習の充実)
- 基礎基本の定着(前時の想起、予習復習、効果的なプリントやワークの取組)
- 補充学習の充実(3年放課後学習・・・11月5教科)
- 小中を通しての授業規律の徹底と算数・数学の接続を図る(小中連携)
- 授業や定期テスト・単元終了時の振り返りの充実(単元テスト、レポート、まちがひ直し等)
- 到達度テストを利用した、学習内容定着度の状況把握
- 教職員で共通理解した上での全国・県学力テストの過去問を活用したドリル
- 津山市問題データベースから作成した長期休業中の復習プリント・朝モジュール学習の練習プリントの活用
- 提出物100%・基礎基本の徹底のための放課後学習(放課後学習サポート事業との連携)
- 生徒への学習への意識付け(生徒会の学習プリント作成と配布)
- 生徒への学習相談や進路相談の充実

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- チャレンジテスト(1学期国語、2学期英語、3学期数学)
- 朝学習、効果的なポイントの反復学習(プリント・問題集)での基礎基本の充実。(毎時間)
- 授業振り返りシートの活用(単元ごと・毎学期)
- 研究授業による授業改善や授業法の研究(毎月の校内研修)
- 学力定着状況確かめテスト(2年、2学期・3学期)及び学習到達度テストの活用(学期または単元)
- 生徒質問紙を活用した、各教科のアンケート調査の実施での状況把握(各学期)
- 提出物100%(各学期)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全国学力状況調査では全国平均と同レベルまで引き上げる。
- 岡山県学力調査では県平均を5%上回る。
- 家庭学習の時間が2時間以上の生徒が80%以上になるようにする。
- 加茂スタンダードの徹底(授業の振り返り、テストやプリント単元の振り返りを全教科徹底する)
- アクティブラーニングの授業法(家庭学習との連携)の研究と実践を推進していく。(B問題の強化)
- 提出物100%